

東亜大学総合人間・文化学部公開講座「千夜一夜」要旨

テーマ「文化の伝播： フランスとトルコ」

第15話 スポーツ文化の伝播： フランス・シャンパン ラグビーへの進化

石井 信輝 (スポーツ学研究室)

フランスはあらゆる文化の薫る国である。その中で、スポーツも芸術や食文化の陰に隠れがちではあるが、フランスにおける文化活動の一領域として、しっかりと認知されている。そのことは、この夏にアテネに戻って開催された近代オリンピックの創始者が、フランス人であるクーベルタンであったことから、容易に推察されよう。また、1984年制定された、「身体・スポーツ活動の組織と振興に関する法律」によって、スポーツが教育、国民統合、社会生活の重要な要素であることが、明記されている。また、同法の中でスポーツ活動の振興のために、国家が関連するスポーツ関連団体の協力を得ながら、積極的に関与していくことが約束されていることも考慮すると、スポーツ活動が生活や文化の中に溶け込んでいることが窺えよう。

ところで、ラグビー競技も南フランスを中心として盛んに行われている競技種目の一つである。1987年に行われた第一回のワールドカップにおいても準優勝を飾り、以降世界の強豪国の一角を占める実力を維持している。また、そのプレイスタイルはフランス特産のシャンパンの泡が吹き出すようにサポートプレイヤーが後

から後から湧き出てくる様子を形容して、「シャンパンラグビー」との異名を持ち、世界中の観衆を魅了しているほどである。本公開講座においては、イギリスから伝播したラグビー競技が、フランスに渡ってシャンパンラグビーへと進化し、一般社会に溶け込んでいった様子を、スポーツ振興に関する法整備、指導体制、および新しいコーチング方法の開発という観点から糸口として解き明かすこととした。具体的には、イギリスからフランスへ伝播したラグビーが、南フランスを中心として盛んに行われるようになった背景や、フランス流の指導方法の独自性についての解説等を行った。またそのことを通じて、フランスにおけるスポーツ文化を独自の視点から論じることとした。

(平成16年7月3日実施)

第16話 コーヒー文化の伝播： トルコのカフヴェから フランスのカフェへ

ヤマンラール水野美奈子

(文化文明史研究室)

現代人の嗜好品として欠かせないコーヒー、憩いの場としてのカフェの歴史はイスラーム世界に求められる。コーヒーやカフェなどの言葉も、アラビア語に起源を有する。イスラームの発祥の地であるメッカでは14世紀になると、コーヒーが夜の礼拝の眠気を遠ざける興奮剂的飲料として飲まれ始めた。

オスマン帝国の歴史家ペチェヴィー(ca.1574-1650)は、1555年にハーキムとシェムスと言う二人のアラブのコーヒー商人が、首都イスタンブールの商業地区として栄えていたタフタカレ

(現在もエミノニュー区にその名を残している)にコーヒー(カフヴェ)を販売する店とコーヒーを飲ませるカフヴェ・ハーネ(コーヒー館)を開いたことを記している。カフヴェ・ハーネは、まず商談の場として地域の商人から重宝がられたが、すぐに詩人、吟遊詩人、漫談師、影絵師などの芸人が集う憩いの場として人気を博することになった。支配者(スルタン)の宮殿であるトプカプ宮殿にも、直ちにコーヒー給仕の役職が設けられた。

ボスフォラス海峡や金角湾を見下ろす風光明媚な場所には豪華なカフヴェ・ハーネが立ち並んだ。大きな店では、窓際に客席を設け、店内中央に噴水を設けて水の音を楽しんだ。給仕場には、陶器の小さなコーヒー・カップや金属性のカップ立てなど並べられ、若く美しい少年たちが客の接待におわれた。コーヒーやカフヴェ・ハーネは、厳しい戒律を求める一部のイスラーム指導者によって禁止されたこともあったが、その人気の前には禁止令も無力であった。市井のカフヴェ・ハーネは、男性の憩いの場として繁栄した。女性たちは、家庭でコーヒーを嗜んだ。女性同士の集いにコーヒーは欠かせない嗜好品となり、コーヒーの入れ方や給仕の作法は女性に欠かせないたしなみとなった。

コーヒーやカフヴェ・ハーネは、17世紀中頃オスマン帝国から、ヨーロッパに伝わり、数世紀を経て、憩いの場として多様な機能を有した現代人の「カフェ」として世界中に伝播することになった。

(平成16年7月10日実施)

テーマ 「人はなぜスポーツをするのか？」

第17話 人間社会におけるスポーツの意義

林 隆也(人間学研究室)

人間の行為はほとんど例外なく、何らかの意味で人間の生存に結び付く。それ故、「なぜスポーツをするのか」という問いかけは、「人間はなぜ生きているのか」という問いと同様に、生産的ではない。スポーツの起源をさぐることは、いつから人間になったのか、と同様である。

現代においては、楽しいからスポーツをする。健康のためであるとか、ストレス解消のためであるとかは、後からの理由付けである。種目に関する選択には、それ故、好みが優先し、どの種目にもそれぞれの特徴があり、それぞれに楽しむことが可能である。

その際、スポーツには「遊戯」の要素と「契約」の要素があることに注目する。「遊戯」は、生存のための物質的な生産を伴わないにもかかわらず、人間が生活上、必要としてきたものである。そのため、競技スポーツを指さない一般市民にとってのスポーツには、楽しみの要素が先行し、勝敗は二義的な意味しか持たないとも思われる。にもかかわらず、勝敗にこだわる場合が多々見受けられることもまた、人間の「遊戯」の多様性を物語っている。

「契約」は、まさに人間が人間同士で或る行動を共にする際の基本的な規約を規定する。「遊戯」と「契約」の両者がスポーツの社会的意味内容を構成する。それ故、スポーツにおける虚構性を学ぶことが、人間の社会の中で生きることと一致する。テレビ中継のために都合が